

新学部創設チームの一員として

実践女子大学名誉教授（創設時：短大部長） 加藤 裕一

人間社会学部創設 10 周年、お祝い申し上げます。短期大学所属であった私が新学部創設に関係したのは、当時、短大部長として理事の任にあったためです。実践女子大と競合する O、K、S などの女子大は既に社会科学系の学部を増設しており、後塵を拝していたためか新学部の創設に理事長の澤井勇先生はあまり賛成ではありませんでした。しかし、社会科学系の新学部は実践女子大学の発展に欠かせないという共通認識が学長の飯島俊郎先生と教学関係の理事（栗原敦文学部長・渡部一穂生活科学部長・小生）にあり、また、常務理事高野金三氏も同じ考えで、理事長との話し合いが続き、新学部創設のスタートに至ったわけです。昭和 40 年(1965)の文・家政学部分立以来 39 年を経ての新学部の誕生でもありました。

設置申請・認可まで、人事関係は文学部長、広報関係は生活科学部長、小生はカリキュラム関係を担当と責任の分担をし、統括は飯島学長からバトンタッチした飯塚幸子学長という体制で臨みましたが、チーム体制で進行できたことがスムーズな設置に繋がったと思っています。小生がカリキュラム関係を担当したのは、短期大学部長として今は廃学科になってしまった「生活福祉学科」の立ち上げの際に文科省との折衝に携わったことや、数度にわたり所属学科であった短期大学国文学科（現日本語コミュニケーション学科）のカリキュラム改変の経験があつてのことで、この経験は新学部での 1 年次からのゼミ導入や基幹科目と専門科目の二大系などの設置に生かすことができました。新学部のカリキュラム説明のために学部長就任予定の長尾演雄先生らと数度文科省に出向いたこと、覚えてたての PowerPoint で中高の教員や評議委員に説明をしたことなどを思い出しています。

創設以来 10 年、学科も増設され充実発展の道を歩んでいる人間社会学部ですが、創設に関わったチームの一員としてとても嬉しく思い、更なる飛躍を願っている次第です。